

寧波市の概要

1 概況（人口・面積・気候）

寧波市は、中国浙江省に位置し、上海の南約 170 キロメートルにあります。浙江省の副省級市として計画単列市に指定されており、面積は 9,816 平方キロメートル（市区 3,730 平方キロメートル）、総常住人口は約 977.7 万人（市区常住人口約 532.9 万人）とされている大都市です。

都市部は海曙、江北、鎮海、北侖、鄞州、奉化の六区に加え、余姚、慈溪の二市、象山、寧海の二県から構成されています。

気候は温暖湿潤で、四季がはっきりし、年間平均気温は約 17℃です。山紫水明の自然環境が魅力の都市です。

2 産業、都市基盤

政府の重点投資がなされ、近代設備を誇る北侖港や寧波経済技術開発区（日本でいう工業団地）を中心に、繊維・機械・石油化学などを主体として電子・薬品・建築資材などが製造され、浙江省の重要な工業基地となっています。

プラスチック成形を中心とした金型、鋳物、アパレルの集積地として知られています。

また、国際飛行場の開設、発電所、高速道路、通信網の整備など、都市基盤整備が整いつつあり、急速な発展を続けています。

貨物取扱量世界一位、コンテナ取扱量世界三位の港湾都市としても知られ、2008 年に寧波・上海間を結ぶ杭州湾大橋(36 キロメートル)が完成しました。

農業では、恵まれた自然条件を生かして、米・大麦・綿花・茶・野菜など多様な農産物が生産されています。

3 歴史・文化

7,000 年前の稲作文化として名高い河姆渡遺跡を有し、春秋時代には越の地でありました。古くから貿易港として栄え、唐の時代には日本からの遣唐使船が何回も訪れた場所です。鎌倉・室町時代にも貿易船が往来し、日本文化にも大きな影響を与えました。

また、天一閣、保国寺大殿、禪宗の名刹・天童寺、阿育王寺など、古くからの文化財が多く「国家歴史文化名城」に指定されています。